

八王子を「多文化防災」の協働モデル拠点へ

団体名 創価大学 中山賢司ゼミナール

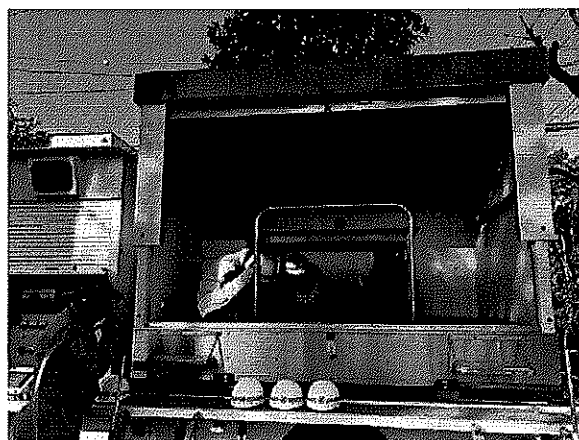
代表者名 飯谷 麗華

① 事業内容

外国人定住者の災害時対応が問題になっている。外国人定住者は、言語、文化、宗教などの壁によって、災害時に正しい情報を得られず、対応が遅れたり取り残されたりしてしまう現状がある。また、避難所でも、周囲との意思の疎通が困難であったり、情報が得られない等、日本人よりも強いストレスに晒されることになる。例えば、八王子市では、ムスリムは集住しておらず孤立化する傾向があり、日本語が話せない人は災害情報や避難所についての正しい情報を得ることが困難である。このように常にダウンサイドリスクに晒されている外国人定住者のレジリエンスを高めるため、防災訓練の開催により災害時の自助の知識の普及・共助のシステムの強化を目指す。

② 実施報告

八王子市にある「アルタウヒードモスク」の近くにある「西平岡公園」にて平成30年11月30日(金)に、ムスリムの方々を対象とした防災を開催した。これは八王子国際協会と八王子消防署との連帯によって行われた。防災訓練は①初期消火器訓練②起震車体験③通報訓練の3つのブースに分かれて実施された。終了後にはアンケートを実施し、効果を検証すると同時に今後の改善点を導き出した。そのアンケートをもとに、外国人向けの防災ガイドブックを作成し、配布する。



③ 事業を実施した感想

在日外国人問題は今回取り扱った災害時の問題以外にも、雇用の不安定・雇用条件の不平等・社会保険の未加入問題・住宅問題など多くある。日本は外国人を適法に受け入れた以上、その生活環境等について一定の責任を負うべきものであり、社会の一員として日本人と同じような住民サービスを楽しむようにしていくことが求められる。在日外国人問題の共通点として、日本人にうまく交わっていない事だ。外国人住民が地域において自立し社会参加をしていくためには、外国人への働き方だけでなく、日本人住民がいかに受け入れるのが重要である。そのためには、地域社会への多文化共生の意識啓発や、日本人住民と外国人住民との交流の場を作ることが必要である。

